



認定特定非営利活動法人 2015.11.17 Vol.105

日本災害救援ボランティアネットワーク
Newsletter

響想の社会をめざして

茨城県常総市支援活動



9月19日(土)～20日(日)の日程で、関西学院大学の学生3名と茨城県常総市の被災者の支援活動を実施しました。常総市は9月10日の台風18号の大雨の影響で、市内を流れている鬼怒川が氾濫し、浸水した地域です。19日(土)は、レンタカーで常総市内に移動し、鬼怒川の決壊場所や浸水した学校など数カ所を訪問しました。今回の浸水被害はとてつもなく広範囲に及んでおり、家屋の被害だけではなく、収穫前の田んぼも甚大な被害を受けていました。

20日(日)はボランティア受付をするために、朝8時に守谷駅近くにある前川製作所に行きました。もうすでに受付をするためにボランティアの長蛇の列が出来ていました。

まず目にとまったのは、地元のラグビークラブの親子メンバー(約30名)が、ビブスを着て車の誘導役をボランティアで行っていたことです。10時30分頃によ

うやく受付が終了し、貸切バスで市民の広場まで移動し、そこから水海道第二高校まで徒歩で移動し、グループ割り(作業場所のマッチング)をしてもらい、近くの民家の片付け作業に他のボランティアさんたちと6名で行くことになりました。

浸水してから1週間近く経過した家財道具、特に食品は腐敗が激しく、悪臭となっていました。作業が終わる頃には臭いもだいぶましになり、家主の方(一人住まいのおばあさん)には大変喜んでいただくことができました。短い時間ではありましたが、関西からボランティアに来てくれたことにとっても感謝されていました。ほんのわずかしかお手伝い出来ませんでした。行ってよかったですと感ずることができました。

10月21日(水)～22日(木)関西学院大学の学生2名と一緒に、再度茨城県常総市に行き支援活動を実施しました。先月片づけのお手伝いをさせていただいたお宅のおばあさんに再度お会いしたいと思い、避難されている「あすなろの里」という避難所に向かいました。受付で面会に来ましたと伝え、おばあさんの部屋を教えていただき、無事に再会することができました。「まさか会いに来てくれるとは思わなかった」と感激しておられました。その後、避難所での様子などを別室で少しお話をお聞きしました。

午後から避難所のスペースでハンドアロマを実施させていただけることになり、学生さんが中心となり実施しましたが、たくさんの避難生活されている方々に体験していただき、皆さん「気持ちよかったです」とおっしゃって下さり、ちょっとホッとしましたが、今後の生活再建については、自宅を再建するのか、行政が借り上げてくれるアパートに住んだ方がいいのか、

- c o n t e n t s -

- P1 茨城県常総市支援活動
- P2 茨城県常総市支援活動報告会/VISION117
- P3 野田村ボランティアバス/前山小学校防災授業
- P4 KSNプロジェクト/佐用町訪問/災害ボランティアセンターの運営/
. 尼崎武庫第9連協防災マップ
- P5 防災マップ検証会/防災チャレンジキャンプ/西宮子ども森林体験ツアー
- P6 丹波市被災者交流会/子ども防災クラブ/高木秋まつり/西宮市防災訓練
- P7 Nうごき/Nごよみ
- P8 会員・寄付者・募金者のみなさま/寄付金募集/カレンダー市/編集後記

皆さん色々とお悩んでおられるみたいで、これからの生活に不安を持っておられる方がほとんどではないかと感じました。翌22日（木）は、被災地の状況を見てまわったり、他の避難所などを数カ所訪問しました。鬼怒川の決壊場所にも立ち寄りしましたが、たくさんブルドーザーやショベルカーなどで復旧作業に取り掛かっていました。

地元の新聞やテレビなどでも被災地の情報はほとんど載っていないとちょっとびっくりしましたが、10月22日時点でも、避難所は常総市内に6カ所、約300名弱の方が避難生活を余儀なくされており、また、災害

ボランティアセンターの情報では、家屋や施設などの泥かき作業もまだ200件のニーズがあるとのことでした。現地の状況をいかに外部に伝えていくことができるのか、我々にとっても大きな宿題をいただいたと思っています。これからも何らかの形で関わればと思っています。常総市までの交通費につきましては、本会に寄せられた皆様からの温かい募金を使わせていただきました。この場をお借りしてお礼申し上げます。尚、引き続き募金を募集させていただいておりますので、ご支援ご協力どうぞよろしくお願い申し上げます。（事務局）

～ 常総市活動報告会開催 ～

9月30日（水）19時から、西宮市民会館に於いて「常総市活動報告会」を開催しました。9月10日の台風18号の大雨の影響により浸水の被害の出た茨城県常総市に9月19日～20日に関西学院大学の学生3名と一緒に訪問した時の活動の様子について報告しました。最初に、常総市の位置関係や被害状況について説明した後、写真やDVDの映像を映しながら、被災地の被害状況や災害ボランティアセンターの受付の様子、あるいは、実際にボランティア活動した内容などについて説明を行いました。

その後、パネルディスカッション形式で、①常総市に行った経緯や意義、②現地で出会った方（80代のおばあさん）への想い、③今後ボランティアに行く方へ、という内容について、それぞれ意見を出していきました。最後に会場の参加者からの質疑応答を行い、プログラムは終了となりました。今回のボランティア活動に参加した学生さんたちからは、「現地に行ってみないとわからなかったことがたくさんあった」と口をそろえて言っていたのですが、若い方々にも被災地の状況を知っていただくことの意味は大きいと改めて感じました。

（事務局）

関東・東北豪雨の被災者支援活動の 募金を受け付けています。

郵便振替 口座番号 00900-5-29560
名義 NVNAD国内支援口
通信欄 「関東・東北豪雨」とお書きください。

ご協力どうぞよろしくお願い申し上げます。
尚、寄付された方は、税制面での優遇を受けることができます。

VISION 117

10月23日、今年もこの日がやってきました。新潟県中越地震から11年。ずっと関わらせていただいている小千谷市塩谷集落に行き参りました。当時小学生だった3名の児童を地震で亡くされた集落です。集落には慰霊碑があり、地震の発生した午後5時56分に集落の方々と関係者が集い、黙祷を捧げます。地震から10年だった昨年は、いつもより多くの方が訪れてくださっただけに、今年は少なくなるのではないかとという声もありました。しかし、今年も実にたくさんの方が集まって下さり、犠牲となった子どもたちに黙祷を捧げ、遺族となられた方々を想い、そして、これまでの11年をしみじみと振り返る時間となりました。終了後、いつものように集落センターに集まって、集落の方々とあの日のことを振り返っていました。そこで自分自身の阪神・淡路大震災11年のときと同じ思いをされている方々がいることを知りました。「10年のときは、節目のような

気がしていた。何か肩に力が入っていた。でも、11年が来て、ようやくあの日のことを話せるような気がしている」との声でした。私自身も、10年の日に初めてKOBÉの朝の集いに参加する気持ちになれて行ってみました。そして、11年。あの頃から、ようやく、少しずつ、震災のことを多様に考えることができはじめたような記憶があります。11年という月日の重さを感じます。

塩谷集落の11年には、明るいニュースも届きました。塩谷集落で出会って結婚したボランティアがいます。そのお二人にお子さんが誕生しました。ちょうど11年を迎える10月23日のことでした。

日本災害救援ボランティアネットワークでは、これまでにお世話になってきたお一人お一人との関わりを大切にしながら活動を続けて参りたいと思っております。引き続き、どうぞよろしくお願い申し上げます。

（理事長
渥美 公秀）





第25弾野田村ボランティアバス

9月10日（木）～14日（月）関西学院大学社会学部と協働で岩手県野田村にボランティアバスを運行しました。

今回の参加者は総勢18名、関西学院大学の学生さんを中心に大阪大学の学生さんも参加しました。10日（木）16時に西宮を出発しましたが、台風18号の大雨の影響で、東北自動車道路が宮城県あたりで通行止めになり、夜中の2時頃から翌11日（金）朝8時頃まで磐越自動車道の磐梯山サービスエリアで待機となりました。すぐに通行止めが解除となっても、野田村まではまだ約7時間かかるということで、福島県郡山市内で運転手さんに仮眠をとっていただくことになりました。

通行止めが解除となり14時過ぎに郡山市内を出発、野田村には予定より11時間遅れの21時に無事到着しました。このようなハプニングは初めての経験でしたが、参加者全員健康状態は特に問題はなく良かったです。結局その日は活動ができず残念ではありましたが、その分、参加者同士の絆が深まったのではないかと思います。翌12日（土）は、午前中、チーム北リアス現地事務所長の貫牛氏より、震災前と震災後の野田村の様子についてレクチャーを受けたあと、「まち探検班」と「復興住宅交流会のお手伝い班」とに分かれて活動を行いました。夕方チーム北リアスの現地事務所に集合し、野田村村議会議員の山田様にお越しいただき、「まち探検班」の報告を兼ねて、野田村の現状や未来について意見交換を行いました。そのあと、村民の方々をお招きして交流を目的に食事会を開催しました。

翌13日（日）は、『のだ村交流祭』ということで、野田村中仮設住宅、泉沢仮設住宅、南沢高台復興住宅、下安家高台復興住宅の4か所で、野田村産のホタテや豚肉が入った焼きそばを中心に、ハンドアロマや茶話会などのプログラムを実施し、住民の皆さんと交流を行いました。この「のだ村交流祭」は、地元の皆さんをはじめ、大阪大学災害ボランティアサークル「すずらん」に多大なご協力をいただきました。野田村ではこれからますます高台移転が進んでいくこととなりますが、仮設住宅に残らざるをえない方のことも忘れず、これからも細く長く野田村と関わっていければと考えています。（事務局）



丹波市前山小学校防災授業開催

9月4日（金）、豪雨災害から1年が経過した丹波市前山小学校で防災授業が開催され、プログラムを大阪大学災害ボランティアサークルすずらんのメンバーと一緒に担当させていただきました。まず2限目の5年、6年のクラスでは、防災ゲーム「クロスロード」に挑戦していただきました。1グループ5名ずつに分かれて、すずらんのメンバーが考えた問題について1人ひとりがYESかNOかの答えを考えて、そのあとグループでなぜYESと思ったか、なぜNOと思ったか、話し合っていました。

次に3限目の1年、2年のクラスでは、日本損害保険協会が考案された「ぼうさいダック」ゲームを実施しました。地震や洪水などの災害時の対応について、動物のポーズを真似しながら、楽しく学んでいただきました。

最後は4時限目に3年、4年のクラスで、「防災クイズ」を行いました。例えば「災害用伝言ダイヤルは何番？」「防災の日は何月何日？」「がけ崩れが起こる前兆はどれでしょう？」というようなクイズ問題を出して、3択で答えを考えていただきました。1限が45分授業なのであつという間にプログラムが終わった感じでしたが、どの学年もとても熱心に取り組んでいただけたかと思えます。この授業を通じて、少しでも防災意識が高まればと願うばかりです。前山小学校の校長先生をはじめ、職員の皆様、お世話になりました。これからもどうぞよろしくお願ひいたします。（事務局）



KSNプロジェクト交流イベント

8月26日（水）、KSN（関西学院大学、西宮市社会福祉協議会、NVNADの3団体が主体）の交流イベントを実施しました。今回は「にしのみや遊び場つくろう会」の皆さんにご協力をいただき、子どもたちの遊び場『プレーパーク』を実施されている空き地をお借りして、原っぱを走り回ったり、手作りのブランコやリヤカーなどに乗ったり、おもいっきり自由な遊びを楽しませていただき、昼食は竹を使って流しそめんを体験しました。

また10月18日（日）関西学院大学に於いて、ハロウィンパーティを実施しました。

西宮へ避難されているたくさんのお子どもたちが参加し、大学生リーダーと一緒に楽しい思い出となるひと時を過ごしていただけたのではないかと思います。（事務局）



9月26日（土）～27日（日）、佐用町学生支援ネットワーク（チャコネット）の学生さんたちと一緒に、兵庫県佐用町久崎を訪問しました。チャコ畑でさつまいもの収穫作業を行ったり、以前焼いた竹炭の袋詰め作業などを行いました。今回の活動には、チャコネットの発足当時（2009年）のメンバーが5名参加し、卒業生・現役生との交流会を開催しました。翌日は、13時から定例のコミュニティカフェを開催しましたが、卒業生を地元の皆さんが温かく迎えて下さっていた姿がとても印象的でした。卒業しても戻って来れる場所があるということは、とても素敵なことだなと思いました。久崎の皆さん、ありがとうございました。（事務局）

「災害ボランティアセンターの運営について」講演会開催

9月26日（土）西宮市民会館の会議室にて、「災害ボランティアセンターの運営について」の講演会を開催しました。講師には、数々の災害現場に携わって来られています大阪府社会福祉協議会の青木淳様にお越しいただきました。

今回の講座では、『災害ボランティアセンター』の運営について、広く一般市民にも知っていただきたいことを目的に開催しました。『災害ボランティアセンター』の意義や役割、体制や運営方法などについて、各地の被災地における災害ボランティアセンターの事例をもとに、スライドやビデオなどで紹介していただきながら、ボランティアの受入の流れやノウハウ、心構えなどについて、基本的なところをご説明していただきました。

イザ災害が発生した際には、災害ボランティアセンターの知識があれば、よりスムーズな対応が出来ることと思います。（事務局）



防災マップづくりを武庫第9連協で開催！



9月2日（水）、9：30～15：00、尼崎市武庫公民館にて、武庫第9連協主催の防災マップ事業が開催され参加してきました。午前中はまち歩きということで、3つのグループに分かれて、それぞれ違ったコースを歩きながら、災害時に役立つものや場所、あるいは、危険な個所などをチェックしていきました。まち歩きから会場に戻り、昼食に非常食のわかめご飯の体験をしていただきました。午後からは、午前中のまち歩きで発見した情報をマップ上に落とし込む作業を行い、最後に出来上がったマップをグループごとに発表していただきました。尼崎では他にも武庫第5連協でも実施しています。（事務局）

防災マップ検証会

9月10日(木)浜脇地区防災マップ検証会が浜脇公民館で、また9月16日(水)には津門地区防災マップ検証会が大筒市民館でそれぞれ開催されました。

この検証会には、地区自主防災会の方々が多数出席され、各地区で最も危惧される「津波災害」を想定災害(テーマ)に、前回の「災害図上訓練・検討会」の後、グループ毎「まち歩き」を実施していただき、実際に目で確認し、情報の点検や新たな情報収集を行ったチェックリストにより、作成された地図を基に「防災マップ検証会」を実施しました。(事務局)



防災チャレンジキャンプ

8月5日(水)～6日(木)1泊2日で、子ども防災クラブのメンバーと、兵庫県佐用町にある南光自然観察村で防災チャレンジキャンプを実施しました。1日目は、キャンプ場で、4つのドームテントを、子どもたちや大学生のリーダーなど全員で設営し、その後、川遊びを楽しんでからカレーづくりを行いました。野菜やお肉を包丁で切ったり、飯ごうでご飯を炊いたり、お鍋でカレーを煮込んだりと、すべて子どもたちと一緒に行いました。カレーの出来栄も最高に美味しく、子どもたちにとっては、1人ひとりが協力しながら自炊の経験が出来たかなと思います。



2日目は、朝食は各自持参した牛乳パックを使って、ロールパンをアルミホイルに包んで牛乳パックの中に入れて、火をつけるとどんどん牛乳パックが焼けていき、5分ぐらいで美味しいパンが焼き上がっていました。朝食後は、今回のキャンプの目玉企画である「防災ウォッチと一緒に学ぼう」ということで、防災クイズやバケツリレーなどにチャレンジしました。防災クイズの方は正解者が多く、また、バケツリレーの方は、2チーム対抗でとても盛り上がっていました。2日間のプログラムを通して、何か一つでも防災について関心や興味を持ってもらえたと思います。大学生のリーダーの皆さん、野外活動の達人、看護師さん、ご協力ありがとうございました。(事務局)



西宮子ども森林体験ツアー

10月31日(土) ささやまの森公園にて「西宮子ども森林体験ツアー」を開催しました。

午前中は、森の中でビンゴゲームの用紙に書かれた植物や生物などを探し、自然と触れ合いながらネイチャーゲームを行いました。普段見たこともないようなものも拾い、子どもたちは感動していました。午後は、森の中に入って間伐体験を行いました。のこぎりで木を切ることが初めての子どもたちも多く、指導員の方から木の切り方や森の手入れをしなければ太陽の光が地面に届かず、根がしっかり張らずに弱い木が育ち、そこに大雨が降ったら土砂崩れなどの災害につながるという説明があり、子どもたちは間伐の重要性を感じた様子でした。



この森林体験ツアーを通じて、森の大切さ、森と災害との関係などを学んでもらえたのではないかと思います。ささやまの森公園の指導員の皆様、ご協力ありがとうございました。(事務局)



丹波市被災者交流会

8月21日(金)～22日(土)の日程で、兵庫県丹波市を訪問しました。21日(金)は、NVNADのボランティアやインターン学生と一緒に、丹波市前山コミュニティセンターに行き、朝から前入りしていた大阪大学災害ボランティアサークル「すずらん」のメンバーと合流し、夕食の買い出しや旧前山保育所跡地内の草抜き作業などのお手伝いを行いました。夕食は地元の方と一緒に、おでんと焼きそばを作り、交流のひと時を過ごしました。

22日(土)は、奈良県の高校生をお迎えし、昨年8月の豪雨災害で流れてきた木々の撤去作業を、大杉ダムで地元の管理組合の皆さんの指示により作業のお手伝いをしました。午後からは多目的ホールにて、地元住民、奈良県の高校生、我々外部ボランティアなどが参加して交流会が開催されました。マジックショーを観たあとにグループに分かれて、レクリエーションを楽しんだり、アロマスプレーを作ったりし、また、地元の皆さんからは、昨年の豪雨災害での被災状況について色々とお話をお聴きしました。このような交流会が今後も開催されることを願っています。前山の皆さん、お世話になりました。(事務局)



第3回子ども防災クラブ

10月24日(土)、高木小学校で第3回子ども防災クラブを実施しました。今回のテーマは「災害食(非常時に食べれる物をつくらう!)」。子どもたちは自宅から非常食を1品持参してもらい、こちらで用意しておいた仮設の青果店で野菜や果物を販売、2班に分かれた子どもたちは、その青果店にて手作り紙幣を使い500円以内で野菜や果物を購入してもらい、自宅から持参した非常食と合わせてオリジナルの災害食を作ってもらいました。1班は3品、2班は6品作ってくれました。最後に全員で試食を行い、審査委員による評価も行いました。災害に備えて、日頃から家族で話し合っていたことの大切さや、災害時は野菜不足がよく言われるので、野菜を摂ることの大切などを、学んでいただけたのではないかと思います。(事務局)



高木秋まつり

10月11日(日)、西宮市の高木公園にて恒例の高木秋まつりが開催され、当団体も参加し、関東・東北豪雨災害の被災地である茨城県常総市の活動風景写真の展示と、魚釣りゲームを実施しました。

おまつりの開始前からたくさんのお客さんが会場に集まってきました。金魚すくいや輪投げなどの遊びブース、あるいは、焼きそばや綿菓子などの飲食ブースなど、様々なお店が並んでいて、子ども同士や親子連れなどで会場内はとてにぎわっていました。高木地区の皆様の団結力は素晴らしいと思いました。お手伝いいただいたボランティアの皆さん、ありがとうございました。(事務局)



西宮市防災訓練

大阪大学 井口 恵梨華

11月5日(木)津門中央公園にて、平成27年度西宮市総合防災訓練が開催され、午後の地域防災拠点運用訓練に参加しました。地震発生後3日目を想定し、防災関係機関や地域の防災会、ボランティアも参加して防災拠点を運営する、という趣旨の訓練でした。NVNADは西宮市社会福祉協議会と共同でボランティアセンターの開設、給水訓練、救援物資の受け入れ・搬出訓練に参加しました。給水訓練では給水車から炊事場までの配水を、救援物資の受け入れ訓練

ではトラックで運ばれてきた物資の仕分けや、配送のための積み込みを行いました。訓練後は炊き出しのご飯をいただいて解散となりました。訓練中、頭では「どのように動くのが効率的か」ということを考えながらも、体では次々とダンボールを運ばねばならず、1時間程度でしたが充実したものに感じられました。また、災害救援において自治体とボランティアの連携は欠かせないものですが、うまく働かないと救援が滞る原因になります。ボランティアと自治体の中継ができる立場として、市に対してボランティアからの要望を伝える訓練も行いました。双方が協力し、より被災者のためになる支援について考えるきっかけとなりました。

NVNADの活動をお知らせするコーナーです。

N
い
づ
ぐ
ら
き



8月	19日	災害ボランティア養成講座（西宮市）	
	21~22日	丹波市訪問交流会（丹波市）	
	21~23日	野田村へ西宮子どもたち交流ツアー（野田村）	
	26日	KSNプロジェクト交流イベント（西宮市）	
	26日	チャコネット定例会（西宮市）	
	30日	丹波市訪問交流会（丹波市）	
	9月	2日	尼崎市武庫地区「防災マップ作成会」（尼崎市）
		4日	前山小学校「防災授業」（丹波市）
		10日	浜脇地区「防災マップ検証会」（西宮市）
		10~14日	野田村ボランティアバス派遣（岩手県野田村）
12日		関東・東北豪雨災害救援支援金募金開始（西宮市）	
10月	16日	津門地区「防災マップ検証会」（西宮市）	
	19~20日	茨城県常総市へ先遣隊派遣（常総市）	
	26日	「災害ボランティアセンターについて」講演会（西宮市）	
	26~27日	佐用町訪問活動（佐用町）	
	30日	常総市活動報告会（西宮市）	
	3日	第9期津市民防災大学第2回講義（津市）	
	3日	尼崎市武庫地区「防災マップ作成会」（尼崎市）	
	6日	NVNAD通常理事会（西宮市）	
	11日	高木秋祭りに参加（西宮市）	
	18日	KSNプロジェクト交流イベント（西宮市）	
11月	20日	尼崎市武庫地区「防災マップ作成会」（尼崎市）	
	20~22日	茨城県常総市支援活動（常総市）	
	24日	第3回子ども防災クラブ（西宮市）	
	25日	佐用町訪問活動（佐用町）	
	31日	西宮子ども森林体験ツアー（篠山市）	
	3日	甲子園浜校区「防災マップ活用ワークショップ」（西宮市）	
	5日	西宮市防災訓練に参加（西宮市）	
	7日	4団体連携防災訓練に参加（西宮市）	
	15日	防災ふれあいウォーク（西宮市）	
	17日	ニュースNo.105発行	

今後の予定・講演などのスケジュール

N
い
づ
ぐ
ら
よ
み



11月	21日	災害ボランティア養成講座（大阪府岬町）
	28日	第1回災害ボランティアコーディネーター養成講座（伊勢市）
	28日	連合大阪「災害時リーダー研修会」（大阪市）
	29日	佐用町訪問活動（佐用町）
	12月	7日
9日		第12回小学生防災探検隊マップコンクール審査会（東京）
10日		ペットと防災を考える（西宮市）
12日		第4回子ども防災クラブ（西宮市）
17日		災害ボランティアコーディネーター養成講座（大阪府柏原市）
17日		KSNプロジェクト交流イベント（西宮市）
18日		津門地区「防災マップ検証会」（西宮市）
19日		第2回災害ボランティアコーディネーター養成講座（伊勢市）
20日		「久崎市」に参加（佐用町）
1月		8~10日
	17日	1. 17行事「被災者交流会 in 西宮」（西宮市）
	23日	第12回小学生防災探検隊マップコンクール表彰式（東京）
	26日	浜脇地区「防災マップ検証会」（西宮市）
	30日	第5回子ども防災クラブ（西宮市）
2月	31日	「イザ！美かえる大キャラバン」に参加（神戸市）
	17日	ニュースNo.106発行

～ 会員・寄付者・募金者のみなさま～

継続会員のみなさま（2015年8月1日～2015年10月31日）

個人正会員：「継続」二宮 英夫、鈴木 茂広、背野 勝美

個人賛助会員：「継続」山本 東志夫、山本 康世、小畠 あつみ

（お詫びと訂正）

104号（前号）団体正会員に掲載の「社会福祉法人光朔会」に誤りがありました。

「社会福祉法人光朔会オリンピア」に訂正させていただくと共に、ここに深くお詫び申し上げます。

寄付者のみなさま（2015年8月1日～2015年10月31日）

「一般」：近畿ろうきんNPO寄付システム契約者の皆様、三浪 富士子、戸口 勇之介、戸口 治子、二宮 英夫

「かざして募金」石森 早苗

募金者のみなさま（2015年8月1日～2015年10月31日）

「東日本大震災」松崎恵子、グッドス ナカヤマ ヨシ

「関東・東北豪雨災害」松田 啓子、山田 昌志、岡坂 友文、森 かよ子、廣瀬 喜代美、音川 礼子、山岸 春治、長岡 平助、米の勉強会、高木秋祭りにご来場の皆様、常総市活動報告会にご来場の皆様、西宮市防災危機管理局職員の有志の皆様、西宮市人事課・職員課等の有志の皆様

ご協力いただいたみなさま

株式会社高山堂

（順不同、敬称略）

ご支援、ご協力ありがとうございました。

尚、振込み頂いた方につきましては、振込名でご紹介させていただきましたのでご了承下さい。

NVNADを支えて下さい！

（振込銀行）

三井住友銀行西宮支店

普通 NO.7833406

名義 特定非営利活動法人

日本災害救援ボランティアネットワーク

当団体は、災害救援支援活動や防災まちづくり活動、ネットワーク活動、災害についての講演、講座、セミナーなどの活動を行っております。皆様から頂いた寄付は、この活動を継続していくために役立ててまいります。

ぜひともご支援・ご協力いただきますようお願い申し上げます。

尚、当団体は、認定NPO法人ですので、いただいた寄付金は、税制優遇を受けることができます。（事務局）

2016年★恒例

チャリティーカレンダー市

開催日 2016年1月8日（金）・9日（土）・10日（日）の3日間

会場 西宮市役所東館8階大ホール

時間など詳細につきましては、決定次第ホームページやブログなどでお知らせします。

◆カレンダー市の趣旨◆

皆様から頂いたカレンダーを販売する好評のチャリティーバザーです。

売上金は、国内外の災害（東日本大災害、丹波市豪雨災害、常総市豪雨災害ほか今後の災害）に対する支援活動の直接費・間接費の費用として使用させていただきます。（事務局）

編集後記

9月と10月に、鬼怒川の氾濫があった茨城県常総市に行ってきましたが、被害を受けた住民の多くは「まさか自分の家が浸水するとは思ってもいなかった」とおっしゃっていた。この『まさか』ということが起こるのが災害であり、普段からの意識や準備で防げることも多いと感じた。津波災害が話題になることが最近多いが、津波だけではなく、地震での倒壊の被害や、川の氾濫などについても、自分たちの暮らす地域の災害のリスクを改めて確認する必要があるのではないのでしょうか。（H・T）

認定特定非営利活動法人 日本災害救援ボランティアネットワーク〔NVNAD〕

〒662-0854 兵庫県西宮市櫛塚町2番20号 西宮商工会館南館 TEL0798(34)9011 FAX0798(34)9022

http://www.nvnad.or.jp/ 発行人：渥美公秀 編集人：伴美代子